



「主要電子機器の世界生産状況（2010年～2012年）」の発行 電子部品に係る環境貢献の見える化

電子部品部

① 「主要電子機器の世界生産状況 （2010年～2012年）」の発行

電子部品部会／統計・予測委員会では、例年電子部品企業のマーケティング情報と部品納入ベースからの推定調査により、世界主要地域・国別の生産台数の実績値と見込値の算出を行っている。同委員会は、最新の調査結果を本年3月に冊子「主要電子機器の世界生産状況2010年～2012年」として発行した。

こここのところの欧州の公的債務危機等による景気の冷え込みによって、世界的に電子機器の需要に陰を落としているが、そのような中、需要を牽引しているのが、スマートフォンおよびタブレット端末であり、電子部品の生産増に貢献している。

そこで今回、スマートフォンおよびタブレット端末を新たな統計品目として取り挙げた。

一方、これまで調査対象としていたパソコン用 DVD ドライブについては、今回から対象外とした。また、地域的にみると、多くの品目について中国での生産拡大が続き、今回も大きなシェアを獲得している。また、アセアン新興国の台頭も目立つようになってきた。

さらに、非常に巨大マーケットとして魅力のあるインドの存在も注目すべきところである。本冊子は、日本語と英語を併記、図と表は英語表記としている。

【調査対象】

- ・ カラーテレビ
- ・ フラットパネルテレビ
- ・ ビデオレコーダおよびプレーヤ
- ・ カーオーディオ
- ・ カーナビゲーション
- ・ デジタルカメラ
- ・ 携帯電話
- ・ スマートフォン

- ・ パソコン（デスクトップ及びノート）
- ・ ノートパソコン
- ・ ハードディスク
- ・ タブレット端末（パネルが5インチを超えるもの）

【調査期間】

2011年12月

【調査対象年】

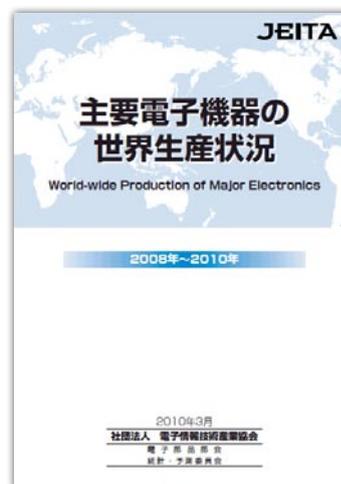
2010年、2011年および2012年

【調査対象地域】

- ・ 日本
- ・ 中国
- ・ アジア（日本および中国を除く）
- ・ 北アメリカ（メキシコを含む）
- ・ 南アメリカ
- ・ ヨーロッパ（東ヨーロッパを含む）

【調査参加会社】

電子部品部会／統計・予測委員会参画の電子部品企業 21社



② 電子部品に係る環境貢献の見える化

企業の社会的責任が叫ばれる昨今、ライフサイクルアセスメント (LCA) やカーボンフットプリント (CFP) に代表されるライフサイクル的視点による製品の環境負荷量の把握と情報開示の要求が高まりつつある。

電子部品に係る環境貢献の見える化

電子部品部会／部品環境専門委員会では、電子部品業界として算出基準を統一することでLCIデータの一定品質を確保するため、2008年に電子部品のLCAガイドを作成した（<http://home.jeita.or.jp/ecb/lcaguide.html>にてダウンロード可能）。



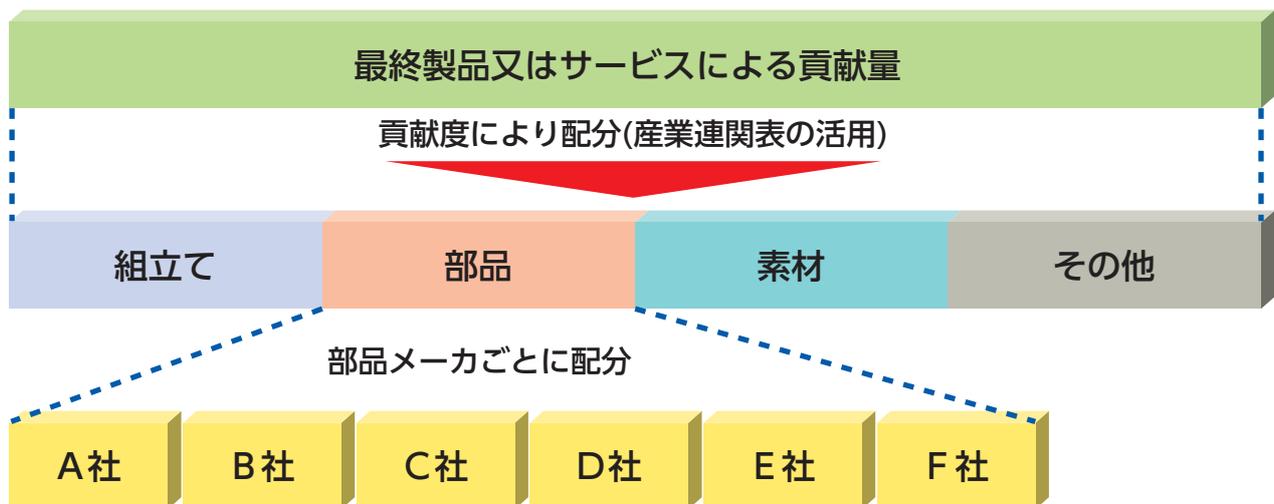
当ガイドは、データ収集の手順についても言及しており、算出作業の負荷低減に寄与している。当ガイドに則り算出した代表的電子部品のLCIデータを前述の電子部品部会のHPにおいて公開する予定である。

一方、環境貢献の尺度として考えられている二酸化炭素（CO₂）の排出抑制（製品使用時）については、多くの企業または業

界団体が実績値あるいは将来の可能性としての数値を公表しているが、未だ定まった算定手法がないのが実情である。

特に電子部品分野では、コンデンサに代表される受動部品のように消費電力の削減によるCO₂排出抑制量が直接算出できないものの、セットに組み込まれて環境貢献に寄与しているという製品が多く、それらの貢献量をどのようにして見積もるかが課題となっている。同専門委員会では、環境貢献量の算定と公表における信頼性の低下と混乱を回避するため、共通の算定手法を制定するべく検討を進めている（産業連関表の活用）。

将来的には、日本の電子部品製造業のエネルギー利用効率の良さに起因する環境負荷（CO₂排出量）の小ささと合わせて、製品使用時における電子部品の環境貢献を定量的に把握・公表し、新規成長分野における日本の電子部品製造業の優位性をアピールすることを目指している。



※セット製品による環境貢献量をまず業界ごとに配分し、業界内でさらに各社ごとに振り分けることで環境貢献量のダブルカウントを防ぐ。

電子部品分野で検討中の配分による環境貢献量算出のイメージ